



無所属・市民派 枚方市議会議員 池上のりこ の 市政報告NEWS

池上典子のホームページ

<事務局> 枚方市楠葉中町35-16

<TEL/FAX> 072-856-2901

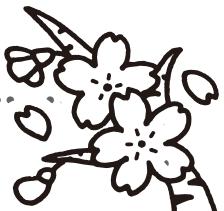
<枚方市役所> TEL.072-841-1221 (代表)

携帯用QRコード



<http://www.ikegami-noriko.jp> (いけがみ-のりこ.jp)

この市政報告は、市政調査の為に発行しています。皆様から頂くメール、お手紙等はパブリックコメントとして議会活動に生かしていきますので、ご意見をお待ちしています。



庭の白木蓮が真っ白な花を空に向かって咲かせています。

皆さん、お元気ですか。今回は、竹内市長の「平成22年度の市政運営方針」に対する、池上の代表質問の報告をいたします。

国の方では、昨年の夏は歴史的な自民党政権の敗北と「政権交代」がありました。その是非はともかくとして、**民主主義のダイナミズム**を感じた方は多いのではないでしょうか。

年末に行われた、国の**事業仕分け**についても、「**私たちの税金の使い道**」また、その**費用対効果**という視点で国民の関心を集めたことは一定評価しますが、限りある予算の中での「事業精査」や「優先順位」の論議は、最終判断をくだす議会としての当然の仕事です。

その議会が、「あれもします、これもやります。」と、**「おねだり集団」**になって**税金をばらまき、票に換えていく**。この結果が国・自治体の膨大な借金です。有権者の意識の方が一歩進んでいるように感じます。

[池上のりこプロフィール]

生年月日	: 1953年 1月5日生 (B型RH+)
経歴	: 1971年 岡山県立津山高校卒業
	: 1975年 日本大学法学部卒業
	: 1995年 枚方市議会議員 初当選
	: 2007年 枚方市議会議員 4期目
家族	: 夫、3人の子供
大きさ	: 身長/163センチ、体重/?
ニックネーム	: 「がみちゃん♪」

池上のりこは「政党に属さず、特定の組織を代弁しない」「一人一人の市民以外に組織を持たない」無所属市民派の議員として、市政や議会に《生活者・納税者》の声を反映させるため活動しています!!

3月議会の代表質問

抜粋

2010年3月5日



来年は、春に市議会議員が、秋には市長選があるので、議員にとっては今期最後の1年です。平成22年度の竹内市長の「市政運営方針」に対する、池上の代表質問です。

- 質問原稿は20ページ以上になりますので、抜粋してお伝えします。
- 平成22年度の竹内市長の「市政運営方針」は広報ひらかたに全文が掲載されています。
- 質問・答弁の全文は、約3ヶ月後に枚方市のホームページ、公共機関に置いてあります。
- 紙面の都合上、質問・答弁共に言い切り型にしていますが、実際のやり取りは内容が厳しくても、お互い丁寧な言葉を使います。

1 行財政改革について



一般的には、市政運営方針に書かれているものに対して質問（ただす）をするのですが、今回は「**行革」「行財政改革**」が全く入っていないことを問題にしました。

池上

15年前、私は議会に送っていただいた。普通の市民だった私がそこで見たものは、**空っぽの財布**と一人当たり年平均**1000万円**という**法外な人件費**、そして**多くの不思議な事業**だった。

議員として最初の大きな仕事は**総合文化施設の「凍結」への同意**、そして、リサイクルプラザ建設の廃止、新設の清掃工場建設費も大幅に切り下げる。

それから5年後（今から10年前です。）**「枚方市、赤字債権団体転落か！」**との非常事態に、役所を激震が襲いました。

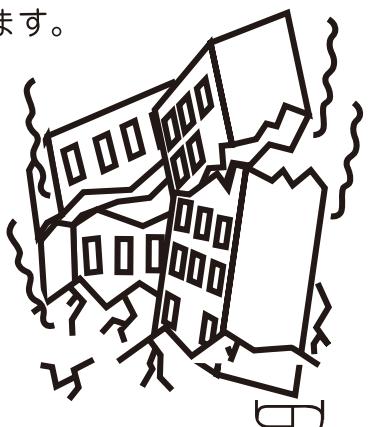
その後、人件費の大幅な見直し、事業の仕分け、印鑑証明の手数料まで、市民の皆さんにも協力を頂きながらの**「行財政改革」**で、ようやく大阪府下でもトップクラスの財政状況までこぎつけ、長年の懸案であった**市立火葬場建設**と**新清掃工場建設**を果たし、**市民病院再建**の道筋が出来てきました。

ある意味で、私の議員生活は**「行革」**と共にあったと言えます。

その頃、清掃工場建設に係る談合事件が発生し、前市長が辞職し現在の竹内市長が市役所に入られたのです。

そして2年前、「ようやくここまで」と思っていた矢先に、アメリカ発のリーマンショック、世界不況の大波が襲いました。

津波のように押し寄せる不況の波は、市民生活も当然のことながら市財政をも直撃しました。



平成22年度予算の市税収入は、昨年より約**22億円も減少**し、生活保護費を含む扶助費（福祉関係費）の支出は、昨年に比べ**74億円も増加**するとの大変厳しい状況です。

このような状況の中で、平成22年度の「市政運営方針」には、「何を削るのか」、「行革」「財政改革」について、なぜ一言も触れられないのか理解できない。

「あれもやります」「これもやります」という、**お花畠**のような市政運営方針で喜ばれる市民もおられますか、最近の大阪市や泉佐野市の**財政破綻**関連の状況をご存知で、ご心配の市民も多くおられる。

どの様な事業を減らすのか、「行革」「財政改革」の言葉が消えた理由をお尋ねする。



市長

従来の「行財政改革」も推し進めていくことにより、行財政の構造自体を変革していくことが「構造改革」であり、この考えに基づき、引き続き構造改革アクションプランを推進していく。

池上

「行革」は包含されているのであえて使わないという答弁なのだが、あの自治体破産の危機にあった時、市長室の前に大きな木製の「行財政改革本部」の看板があがり、**「行革」の二文字は「チーム市役所」の旗印**であった。

2500人職員の心に刻まれた「行革」の二文字。言葉というものは長い間使われていると、その言葉 자체が魂を持ってくる。

厳しい経済状況の波にもまれている市民に対しても「チーム市役所」も頑張っているとの、分かり易いメッセージの発信が必要だ。

2 長期財政見通しについて

池上

自治体財政は、基本的には国と自治体の社会保障費の分担や、税の分配も含めた抜本的な構造改革が必要だと認識は持っている。

しかし、現状で考えれば、平成25年までは市税収入は減少し続け、その後は横ばいで、歳出面では生活保護費を含む扶助費の増加は続くとの見通しが、先日公表された。

今後、給食共同調理場の建設や東部スポーツ公園、津田駅東口周辺整備、市庁舎をはじめ老朽化した公共施設の大規模改修が入ってくる。

大変危険な状態なのではないのかと考えるのだが、長期財政の見通しを尋ねる。

市長

現在は比較的安定している。総合文化施設の整備時期を慎重に判断すれば、平成29年度からの赤字は回避できる。また、国に対して地方税財源のあり方について主張をしていく。

3 市政運営に対する考え方について

池上

市長は「経済が混迷して、明るい展望がなく、市民生活が困難な状況の中で、**市民に明るい希望を与える**」としているが、とても上からの目線を感じ、違和感がある。

市役所は文字通り、**市民の役に立つ場所**。

行政は、市民から税金を預かり、それを公平・公正に事業の優先順位を付け、それを公開し、より効果的なサービスとして市民に提供していく機関。それでいい。

私は**有能な執行権者**としての市長を期待しているのだが、市長は市民のお父さんになろうとされているような不思議な感じがする。市政運営の考え方について聞く。



市長

まず、「市民生活の安心と安定」それと同時に市民生活に密着した行政サービスを担うという、基礎自治体の役割と責任を果たしていきたい。

4 「事業仕分け」の試行について

池上

「事業仕分け」は、2002年にNPO法人構想日本が、国や自治体の行政改革を目的として始めた手法で、昨年末、民主党政府による国の事業仕分けには、多くの国民の関心が寄せられた。

「事業仕分け」の是非はともかく、せっかく試行するのであれば「行政に無駄は無い。全ての事業には必ず喜んでくださる市民がいる。」という、行政独特の看板は少し置いて、真摯に向き合って欲しい。

まだ、やること以外は決まってないようだが、少なくともパフォーマンスに終わって、**「事業仕分けという名前の事業がひとつ増えた。」**などという笑い話のような結果は許されない。どの様なものを考えているのか。

市長

都市経営サイクルにおける「check」機能の一つとして、市民等の視点により、事業の必要性や費用対効果などについて、検証・評価を実施する。期間については概ね3日ぐらいで、実施時期、仕分けの人数、選定方法、事業の選定基準については早急にまとめることとする。

5 公立幼稚園について

池上

公立幼稚園については、**7年前に5園の廃園**をしたにもかかわらず、平成21年度は**ほとんどの園が定員を割り**、一番厳しい園では園児が**定員の4割程度**という状況だ。

現場で関係者の方が頑張っていることは、十分知っている。しかし、このまま漫然と定員割れを続けることは、**行政責任の放棄**だ。「再編も含めたありかたについて検討を進める」と言われたが、どの様な検討で、結論はいつだすのか。



教育長

公立幼稚園の配置について統廃合も含め、少子化時代に見合ったものへと転換していく。

池上



保育所では厳しい社会情勢を受け、昨年は多くの待機児童があった。鳩山内閣は「幼稚園」と「保育所」における文科省と厚労省の**二重行政に踏み込む**構えだ。認定子ども園、幼保一元化、幼稚園の預かり保育、保育所分園など、総合的に検討し、一刻も早い政治決断が必要だ。

市長

教育委員会とも協議して、幼稚園施設を活用した保育所分園の検討を行うとともに、さまざまな方策についても課題整理をする。

6 小児救急医療体制について

池上

「北河内地域の小児救急医療体制の充実に向けて、北河内夜間救急センターなどのあり方について、広域的に検討を進める」としている。

寝屋川市にある**北河内夜間救急センター**は一次救急（初期救急）であり、時間も夜 12 時半までとなっている。特に北部地域の市民にとって、病気の子どもさんを連れて、二次救急の枚方市民病院を通り過ぎ、寝屋川市まで行くことは考えにくい。

枚方市民にとって**小児救急の砦**はやはり、枚方市民病院だ。そして、その「24 時間、365 日の小児救急体制」は、市民の税金を**年間約 5 億円**つぎ込んでいる。**医師の体制にも厳しいもの**がある。それでも**近隣自治体から来られる病児**を、枚方市は何も言わずに受け入れている。

市民病院が担っている小児救急の役割に関して、近隣自治体に再確認をしていただき、**応分の負担や医師の応援等**をしっかり求めるべきだ。

市長

市民病院は、北河内医療圏の小児救急医療体制の中で、大きな役割を果たしていることから、医師の確保の問題や費用負担の問題も含めて、北河内夜間救急センターのあり方を広域的に検討する中で議論すべきことの一つだ。

7 環境対策事業に対する考え方について

池上

市長は「人にやさしい**エコ都市**」をめざすとされ、平成 22 年度も環境対策事業が多く提示されている。

私は国や行政の使う「エコ」という言葉に、最近、一抹の**うさんくささ**を感じている。大規模ビオトープ整備や大量生産・大量消費・大量リサイクル等、「ほんとにエコなのか?」との疑問を持つ。市として環境対策事業をやる以上、それぞれの事業について**長期的な環境負荷**の検証が必要だ。

市長

環境対策事業については、生態系の視点や CO₂ 排出削減などを検討した上で、環境負荷の低減を図る。



8 各種イベントについて

池上

市主催の事業啓発イベントや、市民のイベントが年中行われている。

市民のイベントであっても、**財政支援**や準備・当日と職員が仕事として**「おまつり」**に駆り出されることが多い。

市民のイベントは市民にまかせる。市の啓発事業についても各担当課の自己満足的なイベントの徹底精査が必要だ。

市長

枚方市には多くの歴史文化遺産があり、市民主体の文化芸術活動も盛んだ。これらを活用して「輝き」と「魅力」を創出し、人やまちが元気になるような枚方をつくり、広く発信していきたい。各種イベントの実施については、最小のコストで最大の効果を生める方法を検討する。

9 国・府の交付金・補助金事業について

池上

昨年の自民政権による一人 **1万2千円の定額給付金** のばらまき以降、民主政権になった後も、全国の自治体に対する**大量の交付金・補助金**のつけ方は、**国が思考停止に陥っている**としか思えない状況だ。

交付金を付けることで、自治体の事業の優先順位を変える罪深さもあることながら、バブル崩壊後に国の政策誘導に乗って過大な投資的事業を実施し、今になって借金に苦しんでいる自治体を再度ほうふつとさせる。

5割、6割で出来るといって飛びつくのではなく、事業の必要性や事業効果のきちんとした検証が必要だ。

市長

交付金の目的や交付対象事業を踏まえたうえで、現在、本市が抱える課題の解消を基本に事業選択を行ってきた。今後も活用できる財源は積極的に有効活用し、事業の必要性や事業効果、後年度の財政に与える影響に付き十分検討する。

その他

- 10、留守家庭児童会室の受け入れ拡大について
- 11、地域対話集会について
- 12、ふれ愛・フリー・スクエア事業について
- 13、教科書選定について

切手を
お貼り下さい。

郵便はがき

573-1107

枚方市議会議員
キリトリ

池上のりこ行
キリトリ

枚方市楠葉中町35-16
キリトリ

今、役所の中では、事業に国の交付金がついたとか、企画部は、「うちでのこづち」を持っているとの、浮ついた言葉が飛び交っています。

「100%国の交付金」などと言われば、黙るしかない議員の自分がいます。でも、その「うちでのこづち」の原資は、子どもたちに担わせる借金です。

景気対策の名の下で大盤振る舞いの中央政府を見ていると、サラ金まみれの父親が孫の名義でお金を借りて、ブランド品や車を買ってくれ、海外旅行に招待してくれる、そんな気持ち悪さを感じます。

今、国に求められているのは、しっかりとした外交や医療、持続可能な年金制度の確立、また、破綻寸前の介護保険、健康保険の再構築などではないでしょうか。

地方分権をしっかり進め、国は国の大切な役割に特化していただきたいと思うのは私だけでしょうか。

※ご意見(パブリック・コメント)をお寄せください。

パブリックコメント(ご意見)



編集後記

学生時代に少しやっていた囲碁ですが、数十年ぶりに復活しました。月に3~4日、それも数時間ぐらいがせいぜいなのですが、全く違う空間に時々身を置くことも大切だなと感じています。

かのAINシュタインの囲碁好きは知られていますが、彼はどの様な碁を打っていたのでしょうか。

「囲碁は頭の格闘技」と言った方もおられるのですが、戦う相手は目の前の対戦者ではなく、決断が出来ず機を逸したり、相手をうらやんだり、いじけたりする未熟な自分自身です。

「50歳にして知命を知る」などと言う論語の境地には、いまだ程遠いわが身です。…ヤレヤレ…。

(フリガナ)	
お名前	年齢 歳
ご住所	〒